吉備国際大学研究紀要
（人文・社会科学系）
第26号，1－12，2016

# 幼児教育現場における英語活動のあり方

## ―担当保育者における活動実施の重要性とその方法―

秀　真一郎

**The appropriate English activities in Early Childhood Education fields**
**―The importance and method of the activity enforcement by childcarers―**

Shinichiro HIDE

**Abstract**

This paper is aim to advocate the appropriate English activities in Early Childhood Education fields. There are so many Early Childhood Education fields provide English activities to children. However, it is very significant problem that children get into the activities which are not planed by the class teacher. Daily programs at Early Childhood Education fields must be planed by the class teachers because it is very important for children's development to experience many things from children's interests. The class teachers are the most important understandable persons for children's development. Children's development is supported by these teachers' understandings. It should be avoided to provide English activities which are planed by business. Therefore, it should be cleared how important English activities are provided by the class teachers. It is also the significant problem that Japanese teachers in Early Childhood Education fields are not used to getting close to English. It, also, should be provided the methods and materials that the teachers can use in their English activities. Of course, it must be changed to the way for their children fit. Once again, it is time to consider what are the most appropriate English activities in Early Childhood Education fields, and how it should be provided to children.

**Key words**：English activities, Early Childhood Education, Class teachers, Daily programs
**キーワード**：英語活動，幼児教育，担当保育者，日常保育

吉備国際大学心理学部
〒716-8508　岡山県高梁市伊賀町８
*Kibi International University*
*8, Iga-machi, Takahashi, Okayama, Japan (716-8508)*

## Ⅰ．はじめに

現在，日本における幼児教育を取り巻く状況は変遷の一途をたどっている。長年にわたり幼保一元化が唱えられてきたが，その実現には至らず，変わって待機児童の解消と幼稚園の違う形での存続として認定こども園が施行されることとなった。そのことにより，子ども子育て支援新制度がスタートすることとなった。

ようやく現場も落ち着き始めたものの，その複雑さに混乱が生じたとも言え，現在に至っても認定こども園の位置付けが曖昧なものと言わざるをえない状況となっている。認定こども園に対応するべく，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」も施行され，幼保一元化の流れとは逆行しているかのようである。

保育所不足の流れがあることで，保護者による選択の余地は現在ないものの，幼稚園における入園希望者不足は，幼稚園存続の危機を招いている。幼児教育現場における保育もそれぞれの園による独自性を主とする流れが生まれ，従来の保育内容に加え，様々な新しい取り組みや特別活動を取り入れることが当たり前となっているようである。

様々な特別活動は，その地域性を取り入れた子ども達にとって慣れ親しんだ地域文化を中心とした活動も取り入れられている。また，定番と呼ばれる鼓笛隊・絵画教室・体操教室・スイミング・英語活動なども，今となっては珍しい活動ではなく，ごくごく当たり前にほとんどの現場で取り入れられている。

英語活動に焦点を当てているこれまでの研究から，幼児教育現場における英語活動は近年始まったものではないことがわかった。さらに，英語活動の取り入れは，近年さらに積極的に行われているという特筆すべき様子も見られた。しかし，実際に行われている活動の様子は，取り入れが活発になってきた現在の様子にもあるように，自園による独自性を取っている園はごく僅かで，その実態は外部業者による委託が主流となっている。

ここでは幼児教育現場における英語活動を様々な視点から捉え，日本における幼児教育のあるべき姿と英語活動を密接に捉えることで見出した，「担当保育者による英語活動実施の重要性とその方法」について提唱し，日本におけるグローバリーゼーションの潮流に一石投じることを目的とする。

## Ⅱ．英語活動実施による保護者の期待

### １．保護者アンケートの結果から見る保護者の期待

先行研究として，関東・東海・中国の各地方における都市部に在所する幼稚園・保育所８か所を対象に，英語活動を行っている幼児（３・４・５歳児）の保護者へのアンケート調査を行った。アンケート調査においては，21のアンケート項目を設定し，その結果から幼児教育現場における英語活動に対する保護者の捉え方について考察した。そこでは，３つの意見から見る保護者の期待がわかる。特にその期待は早期英語活動に対する期待と言える様子が見られた。

#### １）早期英語活動における期待

保護者に対するアンケートそのものの回収総計が1834件に上ったことは驚くべき結果と言える。もちろん，協力いただいた幼稚園・保育所の回収努力によるものと考えるが，それと同時に保護者の持つ幼児教育現場における英語活動に対する関心の高さが，回収率の高さに繋がったのではないかと考える。さらに，回収したアンケート回答のうち，約３分の１の保護者が「幼児の英語活動」について何らかの意見を持ち，期待を寄せていることは大変興味深いものと言える。しかし，多数の肯定的意見という結果に対しては，アンケート調査を依頼した幼児教育現場がすべて英語活動を行っていたことに起因する

点は否めない。

(1)　保護者自身の経験による肯定

まず１点目としてあげられる保護者の期待は，保護者自身の英語に対する経験が，幼児教育現場の英語活動に対する肯定意見に反映されていると見られる点である。保護者の英語に対する経験はポジティブなものばかりではなく，ネガティブなものも含まれている。ポジティブなものとしての代表的経験は，保護者自身の英語力の高さに対する自負であり，我が子に対してもこの点に関して同じ経験を希望するからこその肯定的意見と考える。しかし，このポジティブな経験による肯定意見は数にするとかなり少なく，ネガティブな経験からくる肯定意見が圧倒的多数と言える。

ネガティブな経験からくる肯定的意見の代表的なものは，保護者自身が英語を苦手とする，もしくは自身が受けたとされる文法中心の英語教育により，会話能力の低さを懸念する点からくるものである。自らの英語に対する経験を子どもにはしてほしくないという思いが，我が子には会話を含めた英語能力の高さを求め，肯定的意見となって現れたように感じる。

(2)　高い価値や質による先行投資

２点目は，英語活動における経験においてネイティブ志向という点である。これを表しているのは，“正しい発音によるリスニング力の向上”“日本人による英語活動＝低い質”という思いから，ここで挙げられるネイティブ志向が生まれたと考えられる。

中には理由が挙げられずに“ネイティブスピーカーによる英語活動を望む”“ネイティブでなければならない”という意見が見受けられた。この意見には，まだまだ日本人の中に存在する“欧米文化・欧米人に対するコンプレックス”が影響していると考える。たしかに，外見という見た目による視覚的情報は，様々な経験が大切な子ども達にとって大切な多文化教育的要素が含まれている。しかし，ネイティブスピーカーによる英語活動が高い価値・高い質という点に，根拠なくイコールで結んでしまうことは大変危険な見解となる。さらに言えば，このような“欧米コンプレックス”は，何の予備知識や基盤経験のない子ども達には存在しないものである。大人による勝手な思い込みや過度な反応は，子ども達が本当に必要なものや経験を奪ってしまいかねない。

(3)　懐疑的意見の持つ意味

これまでにも述べてきたように，幼児教育現場における英語活動に対しては，数多くの肯定的意見が存在した。そして，この多くの肯定的意見には保護者の強い思いも存在する。しかし，この肯定的意見の裏にある懐疑的意見にも，強い思いがある点に注目しなければならない。

懐疑的意見には“日本語の重視”“乳幼児期だからこその基本的生活習慣の重要性”を強く感じている背景が伺える。そもそも“英語を習っている子ども”とはどういう子どもなのか。“英語を習っている子ども”は“英語を第一言語としていない子ども”という前提からきている。そして，懐疑的意見を述べた保護者はおそらくこの前提を念頭に，意見を述べているのではないかと予想される。しかし，ここで挙げる前提とは時代が変わろうとも変化することはないものである。

以上に述べて３点において，現在の幼児教育現場における英語活動に対する保護者の期待を読み取ることができる。これらの様子を基盤とする中で，実際に行われている英語活動の事例を見ることとする。

## Ⅲ．英語活動の事例

### １．私立保育所における活動事例

ここではまず一つ目の事例として，東海地区にあるA県S市の私立保育園での英語活動事例について挙げる。英語活動指導者は日本人であり，通訳案内

士（英語）として活躍する一方で，当園園長を退いた８年前より保護者の要望に応じる形で，中学校教諭（英語）の素養を活かして「英語遊び」を導入した。現在，週１回，１時間程度，年長クラスを対象に活動している。保護者も，年に２回参観する機会が設けられている。「英語発音の反復練習や文字の練習」よりも「楽しく自然に英語に親しめる」こと，英語嫌いにさせないようにすることに重点をおいていた。

### １）活動概要

活動の導入として，インフルエンザや風邪にかかっていないか，「気をつけようね」（Be careful.）などと，英語での問いかけから始め，その後も日本語を添えながら呼びかけていった。続いて，「暑い」（hot），「寒い」（cold）など気候を表すカードを提示し，指導者が発音する中で，その後に続いて子どもが反復していった。ついで，CDにより「ドレミの歌」（英語版），「もりのくまさん」（英語版）を歌う。活動中には「難しいけどだんだん歌えるようになるよ。」と声をかけながら，ゆっくり「♪One sunny day, I met a bear....」と歌うなどし，馴染みの歌を英語で歌えること，またその楽しさを伝えていった。

次に，乗り物や人間の動作についての表現を英語にて行う活動となった。黒板に乗り物を示した絵を張り出し，「What is this?」と子どもに問いかけたり，動作を示した絵（「turn around」「brush my teeth」「read a book」「play soccer」「touch the ground」など）を提示して，指導者が実際にその動きをやってみせ，「What I'm doing?」と問いかけることで，英語による表現と実際の動作をマッチングまたは理解するという活動を行った。

それに続くビンゴゲームでは，上記の動作を示す絵を九つ組み合わせた「ビンゴカード」を配付し，指導者の動きが自分のカードにあれば○印をつける活動を行った。九つの絵の組合せは一人ずつ少しずつ変えてあり，ゲームを盛り上げるよう配慮してあった。

### ２）考察

外部委託による英語活動が多く行われる中，自園関係者が自ら英語活動を展開する例は少ない。園の特徴や子どもの実態を十分に把握している自園関係者だからこそ可能な活動を行っている点に，当園での英語活動の最大の特徴がある。活動前に，「Mr. Masaki!!」と，子どもが職員室にいる指導者を呼びに来ることがきまりとなっている。子どもたちにとって身近な存在である人物が，英語活動の指導者であることで，英語への親近感にも効果的であるという点に当園の活動が特徴付けられていた。

## ２．インターナショナル保育園における活動事例

二つ目の事例は，関東地区にあるS県S市の認定保育園Mインターナショナル保育園のものである。当園は日常生活においても英語による保育を行うインターナショナル保育園ということから，特別活動として英語活動を行っている状況とは一線を引く形となってしまう。しかし，在園児の多くが日本人という状況から考えると，英語との関わりに関するアプローチの方法は事例としてあげるに値するものだと考える。さらに，日常保育での英語活動を取り入れるヒントとなることからも事例としてあげることとする。

保育者は担当外国人保育者として８名在籍しており，うち３名は正規保育者となっていた。出身国はガーナ，カメルーン，ネパール，ロシア，フィリピン，韓国と様々であった。３歳児以上は担任が外国人保育者，副担任が日本人保育者で構成されており，生活のほとんどが英語という環境であった。

### １）活動概要

３～５歳児の合同サークルタイムにおいては，

外国人保育者による「週末，何をしましたか？（What did you do on last weekend?）」の問いに対し，それぞれの答えを英語にて答えていた。答えの内容では「スカイツリーを見に行った（I went to see Skytree.）」や「友達と遊んだ（I played with friends）」であった。そこで時制の間違いを訂正しながら,「誰と？（With who?）」や「いつ？（What date? Saturday? Sunday?）」といった深まる質問を行っていた。最後に保育者の発表を行い,「私は日曜日に一日中寝ていた！（I slept all day long on Sunday!）」という笑いがあり，分からない子が隣の子どもに聞くという様子も見られた。

プロフェッション（職業について）では，それぞれの月のテーマに沿った質問をし，スーパーマーケットに関する質問では「スーパーマーケット（grocery store）」「店員（a shop assistant）」「お客さん（a customer）」などを子どもたちが英語で答えていた。さらに，歌やダンスによって印象付ける方法も取っていた。その他,「将来何になりたいか？」という保育者からの質問に，カードを掲示しながら「サッカー選手（a soccer player）」「警察官（a police officer）」「先生（a teacher）」「宇宙飛行士（an astronaut）」などと英語で答えていた。

４～５歳児における日常活動では，カレンダーや天候，数などを行い，これらも英語でのやりとりとなっていた。その後の５歳児の活動では，新しい言葉を覚えたり，ワークブックによるアルファベットの書き取りやタブレットを活用した車の種類を英語によって答える活動を行っていた。

### ２）考察

幼稚園・保育所における英語活動は，契約の外国人講師を招いて，週数回行うパターンが多く，単発的に行っている園がほとんどであるが，当園においては，生活そのものが英語であり，壁面などに掲示している手洗いやうがいなどのサインも英語によるものであった。日本以外の国の文化に触れることや自分を表現することは，英語というツールを用いて強調されていると思われる。また，子ども同士で教えあったり，３歳児が４，５歳児に対し憧れる場面も見られた。養護の部分に関しても，すぐそばに外国人の先生がいることで，多文化的要素の中にも，自然に快適に安定感をもって生活をしている様子があった。全体を通して，養護と教育が一体となった保育を英語活動によって行っていると言える。

## ３．英語活動実践者によるインタビュー

三つ目の事例は，首都圏E区にある私立保育園にて英語活動を実践されている方へのインタビューの結果を基にした事例である。インタビュイーは英語活動実践者として，様々な経験を基に子ども達への英語活動を実践されてきた。そのような経緯からくる幼児教育現場における英語活動の実際を考察する。

### １）実践者の保育観に視点を当てたインタビュー結果

英語活動実践者に対するインタビューの結果，以下の八つにまとめることができた。

#### ⅰ．子どもに英語を教えるきっかけはなんだったのか

近隣にてアメリカ人によって行われていた，英語レッスンの引き継ぎ要請がきっかけとなった。子どものためと親の憩いの場を作ることを目的とした。子どもに英語活動を無理やりやらせないで，親が率先して楽しくやることが子どものモチベーションになることを発見し，それをモットーとして行っていた。その後は，現在行っている保育園で週１回30分で英語活動を行っている。

#### ⅱ．英語活動における意図やねらいは何か

英語を使って楽しい時間を持つことが最大の目的

としている。英語に早くから触れることには賛成であり，日本語以外の音・リズムを聴き取る耳を育てるほか，日本語以外の言語・文化の理解も大事な要素と捉えている。しかし，知識の詰め込みではなく，達成感・楽しかったという感覚がより重要で，勉強でなく活動の場と捉えている。

ⅲ．保育現場における英語活動をどのように捉えているか

英語だけじゃなく文化的なアプローチもしていきたいと考えている。あくまでも保育士と一緒に英語を交えての遊びと考え，さらに，新しいことに触れる楽しさを味わう場としても捉えている。楽しさを“わかる”という点も子ども達にとっては重要で，日本語での英語活動の良さは，英語活動の楽しさを日本語によって理解した上で英語という言語に触れ，楽しむことができる点だと考える。

ⅳ．教材をどのように作ったか（今のスタイルをどのように確立したか）

CTM（Creative Teaching Materials）の教材を使用しながら，副教材を自ら作成した。試行錯誤の連続であり，まだ確立したとは思っていない。常に英語活動を片隅に置き，日常生活やインターネット上で目にし，耳にするものを教材や題材に活用できないかと考えている。「半知（半分知っている）」は子ども達にとっては重要で，好奇心を最もくすぐる状態と言える。そのことからも，教材を自ら作成する上で子ども達の生活に身近な題材を使用することを心がけている。さらに，英語活動を活発にし，経験として印象を深めるものとしてワークシートの重要性を認識している。このことからも英語活動にワークシートを取り入れている。

ⅴ．活動内容や題材を選ぶ上で大事にしているものは何か（題材の選択基準）

日本語との違いとして，英語独特の“月・曜日の表現”は取り入れるが，活動テーマとしては捉えていない。子どもたちが興味を持ち，活発にみんなが参加でき，発話する機会がある様に心がけている。身近な存在で知的好奇心を刺激するものを大切にしている。

ⅵ．目指す方向性，望ましい子どもの姿をどのように考えているか

英語活動が終わった後も好奇心や興味を持続してもらいたい。英語活動をきっかけに，外国や異文化への興味を持ち，違う価値観や様々な点での違いを認めることができ，広い視野とともに成長してほしい。

ⅶ．現場保育者が英語活動を行うことの意味をどのように考えているか

現場の保育者が行うための人材育成や確保は難しいと考える。しかし，外部教師と担任保育士の連携によって英語活動は問題なく行うことが可能である。

ⅷ．今後の保育者にやってもらいたい英語活動の形，望まれる保育者像とはどのようなものか

保育者によって子ども達の姿や活動への関わる姿勢，意欲は変わると考える。そのため，メリハリをつけた保育をする中で，子どもたちと英語活動を楽しんでほしい。子どもたちを褒め，自信をもたせ，盛りたてていくことでその役割は十分果たされていると感じる。

2）実践背景と実践者の保育観に対する考察

インタビューを行った実践者において注目すべき点は，子どもと英語を結びつけるものを「遊び・経験・きっかけ」としている点だと考える。幼児教育における英語活動を早期教育と捉え，英語の習得を目指すものとは一線を画していると言える。この点

に関しては，意図やねらいにおける「他言語・異文化理解」からも読み取ることができる。実践者の願いが「英語活動をとにかく楽しむこと」ということこそ，実践者の保育観の表れだと考える。

## IV. 担当保育者による英語活動実施の重要性

### 1．幼児教育における本質

これまで述べてきた英語活動における保護者の期待や実践例は，実際の幼児教育現場で見られるものである。そこで，英語活動を実際に行う現場においての保育そのものについて述べる必要がある。

幼児教育の本質とは，乳幼児の成長発達における基盤の形成とその後の人生を大きく左右する人格の形成と言える。親を含む特定の大人との間に築いた信頼関係をもとに，情動的経験を繰り返し行うことで自我が確立されていく。幼児教育とは，「模倣」と「反復」によって見出された経験が，子ども達にとってふさわしいものとなるよう実現するものである。

#### 1）子どもの最善の利益

幼児教育現場における保育は，将来の礎となる“生きる力”の形成に伴う様々な経験を積み上げることを主としている。保育所保育指針では保育所の役割として，「入所する子どもの最善の利益を考慮し，その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」としている。さらに，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育および保育の目標として，「義務教育およびその後の教育基礎を培うとともに，子どもの最善の利益を考慮しつつ，その生活を保障し，保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成するもの」としている。

#### 2）保育とは

##### (1)　子ども理解から始まる保育

保育とは子どもが環境に対して自発的に関わることによって積み上げられる経験を支援するものである。言い換えれば，子ども達の興味関心，発達段階を十分に理解することで計画的に構成された環境を適切な形で提示することである。このことからも保育とは保育者によってなされた子ども理解が基盤となって行われるものであり，子ども理解から始まると言ってもよい。

##### (2)　環境を通した保育の持つ意味

子どもの環境との自発的な関わりこそ保育の本質となるということは，環境は子どもの興味関心，発達段階を十分に理解した形で構成されるべきものとなる。さらに，その環境は突発的で主観的な理解のもとで構成されるべきものではない。論理的な計画のもとで，ねらいや内容が十分に達成される構成でなければならない。十分な子ども理解からくる環境は，子どもの自発的関わりを生み出し，自発的関わりだからこそ自らの力で適切な経験を積み上げ，生きる力の礎を学びとることができる。

### 2．担当保育者による英語活動実施

#### 1）生活に根付いた経験

##### (1)　遊びを通した保育だからこそ身につく

遊びとは子どもの生活の中心であり，子ども達が日々直面する様々な経験は遊びを通して積み上げる。遊びと直結し“楽しい”という感覚を伴う経験だからこそ，子ども達は何度も経験したいという欲求を持ち，経験の積み重ねを自ら欲することとなる。このことからも，当然幼児教育における英語活動も遊びを中心とした経験の積み重ねと捉えられる必要がある。

##### (2)　生活に根付いているからこそ子どもも大切と理解する

さらに，日本の幼児教育現場における英語活動は，現在展開される保育内容の一部として捉え，日常の保育に根付いたものと捉える必要がある。日常保育に根付いているということは，子どもの生活と密接

な関係が築かれているということである。生活に根付いている活動は，子ども達の興味関心や発達段階にもあったものとなり，活動で展開される内容は影響の大きい経験として積み重ねられる。

### 2）信頼関係に基づく保育者によるねらいの重要性

#### (1)　特別なものではないという理解

英語そのものが子ども達にとって日常で，日々の生活の中で溢れているものだという理解は，子ども達以上にまず保育者によってなされなければならない。特別なものではないという理解は，英語と子ども達をつなぐ保育内容に反映されることとなる。

#### (2)　信頼する保育者との楽しい活動だからこそ得られる経験

さらに，その保育内容を計画するのは子ども理解が十分になされている担任保育者であるならば，その計画は子ども達にとって密接な関係が見出される。信頼する保育者から見出された密接な関係を持つ英語活動は，意味のある楽しい活動として子ども達に理解されることとなる。様々な経験をする上で人格形成を行い，生きる力を身につけている子ども達だからこそ，「他言語・異文化理解」は重要な経験となり，その経験を立案・実践する人こそ，子ども理解が十分になされている担当保育者でなければならないと考える。

### 3）実践するために必要なもの

#### (1)　保育者自身の英語に対する特別感の払拭

上述したように，英語活動を日常保育の一部と捉えるためには，立案・実践者も子ども理解が十分なされている担当保育者である必要がある。しかし，担当保育者自身が英語に対する特別感を持ち続けていては，子ども達にとっての英語活動の特別感が拭えない。まずは，担当保育者の英語に対する特別感を払拭することが大切である。これはまさに，英語活動が日常保育内容の一部と捉える意識改革と言える。

#### (2)　可能性やベースとなるメソッド・コンテンツ・マテリアルの理解

日常の保育において，現場保育者は日々の保育のヒントや新しいアイデアを得る上で，様々な情報を取り入れ保育を行っている。担当保育者により立案・実践される英語活動においても，当然同じことが必要となる。そのためにも，取り入れることで保育者による英語活動を可能にするメソッド・コンテンツ・マテリアルの作成および周知が必要となる。

## Ⅴ．担当保育者による英語活動の方法の事例

### 1．音楽から経験する英語の世界

幼児教育現場における音楽とのかかわりは，とても日常的で深い。朝の挨拶や給食のいただきます，おやつを食べる前やお帰りの歌。1日の中で歌を歌う機会は想像以上に多い。さらには季節や月毎に新しい歌やなじみの歌を歌うことは，子ども達にとってとても楽しい活動となる。

しかし，この子ども達にとってなじみ深い活動と英語活動は，気づかないうちに密接な関係がある。ましてや，子ども達にとって馴染みのある歌ですら，すでに英語との関係が広がっている。これこそ子ども達にとって「知ってるけど知らない」「なじみ深いメロディーだけど，なんか違う」という環境を生み出すことが可能となる。

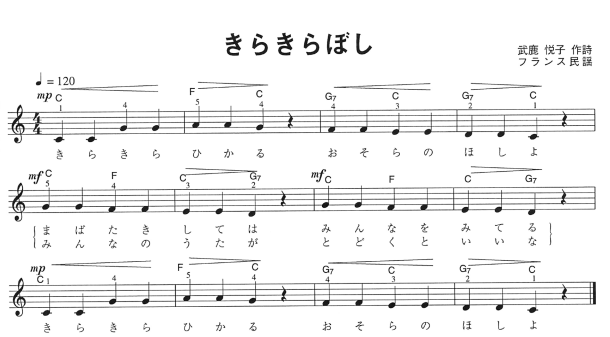
#### 1）「きらきらぼし」と「Twinkle Twinkle Little Star」

「きらきらぼし」は子ども達が一度は歌ったことがある幼児教育現場では定番中の定番といえる曲である。しかし，この「きらきらぼし」は「Twinkle Twinkle Little Star」というメロディーも同じ英語の歌が存在する。これこそが，子ども達にとっての「知ってるけど知らない」や「なじみ深いメロディーだけど，なんか違う」という“半知”という状態で

ある。“半知”は子ども達の好奇心をさらに掻き立て，新しいことを知ることにさらなる喜びを生み出す状態だと言える。知ってるメロディーに全くわからない言葉。頭の中に広がる混乱に似た疑問だが，決して恐怖ではなく，そこには「知りたい！」という欲求に満たされることが予想される。

| | 活動の流れ | 保育者のことば及び行動 | 予想される子どもの反応 |
|---|---|---|---|
| 1 | きらきらぼしのメロディーを流す | 前奏を説明もなく弾き始める。 | 子ども達はメロディーを聴き、「きらきらぼしだ！」と予想し、歌いだしに期待しながら待つ。 |
| 2 | 「Twinkle Twinkle Little Star」との出会い | 歌いだしとともに♩Twinkle Twinkle Little Star～♩と英語で歌い始める。 | 歌いだしこそ元気よく♩きらきらひかる～♩と歌い始めるが、保育者の歌う言葉を聞き、驚いて歌うことを止める子やすぐに英語と気づき、「あっ！英語の歌だ！」と口にする。 |
| 3 | 「Twinkle Twinkle Little Star」と「きらきらぼし」との相違について楽しむ | 子ども達の反応に耳を傾けながら、最後まで歌い切る。<br>そして、「今の歌は何の歌だったと思う？」と尋ね、子供達の発見と好奇心をさらに掻き立てる。 | 「知ってる知ってる～！」や「わからないわ・・・」などのそれぞれの反応を示す。<br>保育者の質問に対して口々に「きらきらぼし」と答える。 |
| 4 | | 「きらきらぼし」の歌だったけど、何か違ってたねぇ・・・、何が違ってたかな？」とメロディーは同じだけれども、違いについての視点を促す。 | 「わからない言葉だった」や「英語だよ、あれは英語の歌だった！」と違いに対する率直な印象や自らの知識についてロにする。 |
| 5 | 「Twinkle Twinkle Little Star」の歌詞の意味について興味を持つ | 英語の歌という答えを発表し、気づいたことやわからなかったけどきらきらぼしに気づいたことを褒める。<br>「Twinkle Twinkle Little Star」という英語名を伝え、歌詞の意味を丁寧に説明する。<br>♫きらめくきらめく小さな星よ<br>あなたは一体なんなのでしょう<br>世界のずーっと遥か上空<br>まるでダイヤモンドのように夜空に<br>きらきききらめく小さな星よ<br>あなたは一体なんなのでしょう♫ | 口々に「Twinkle Twinkle Little Star」と英語名を言い始め、英語を知った・英語を喋ったという喜びを感じる。<br>英語の歌詞の内容に触れ、知っている日本語のきらきらぼしと同じところや、違うところに気づき、言語は違っても星に対するイメージは同じという認識を持つ。 |
| 6 | 「きらきらぼし」と「Twinkle Twinkle Little Star」を両方歌い、日本語と英語の持つ面白さに触れる | 「それじゃ、みんなのよーく知っているきらきらぼしを歌ってみようか！」と言って、歌うことを楽しむ。<br>「次はTwinle Wwinkle Little Starをゆっくりでいいから歌ってみようか？」と言って、難しさや日本語との違いを楽しむように声掛けをする。 | 「きらきらぼし」は慣れ親しんでいるので元気よく歌う。<br>「Twinkle Twinkle Little Star」は難しさに挑戦する気持ちを持って、違いを楽しみ、意味がわかったことで親しみを持って歌うことができる。 |

「きらきらぼし」「Twinkle Twinkle Little Star」指導案




「こどものうた175」

Twinkle Twinkle Little Star

Twinkle twinkle little star

How I wonder what you are

Up above the world s high

Like a diamond in the sky

Twinkle twinle little star

How I wonder what you are

「Kidsongs」

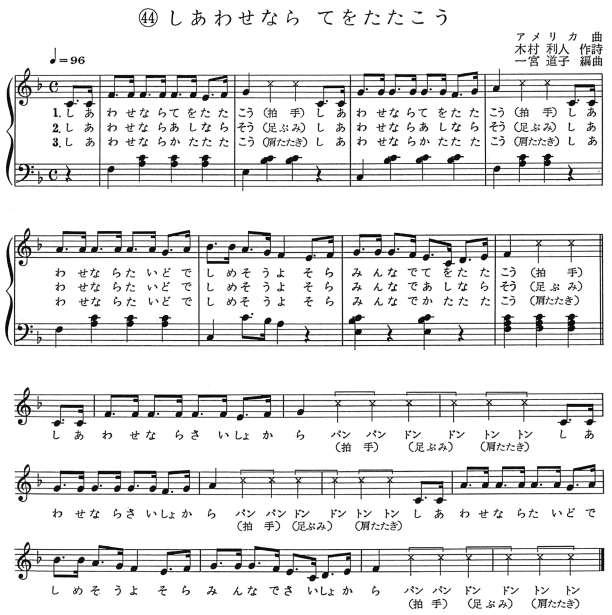
左記の表は，実際に「きらきらぼし」と「Twinkle Twinkle Little Star」を題材に，担当保育者によって英語活動を行う事例となる。ここでのポイントは，普段歌いなれた日本語での「きらきらぼし」との“違い”に触れ，英語の歌が“似ている”に気づくことである。しかも，この取り組みを信頼を寄せる担当保育者によって展開されることで，子ども達にはいつもと同じという安心感と好奇心を引き出される高揚感が，日常の保育に見られる経験へと変化するのである。

## 2）「しあわせならてをたたこう」と「If You're Happy and You Know It」

「しあわせならてをたたこう」も幼児教育現場ではなじみ深い，定番の曲といってもいいほど親しまれている曲である。この曲の特徴は，曲に合わせての身体活動が伴っているという点である。手をたたく・足をならす（足踏み）・肩をたたくという活動が歌詞に含まれており，歌と共に体の動きを楽しむものとなっている。

| | 活動の流れ | 保育者のことば及び行動 | 予想される子どもの反応 |
|---|---|---|---|
| 1 | しあわせならてをたたこうのメロディーを流す | 前奏を説明もなく弾き始める。 | 子ども達はメロディーを聴き、「しあわせならてをたたこうだ！」と予想し、歌いだしに期待しながら待つ。 |
| 2 | 「If You're Happy and You Know It」との出会い | 歌いだしとともに♩If you're happy and you know it～♩と英語で歌い始める。 | 歌いだしこそ元気よく♩しあわせなら～♩と歌い始めるが、保育者の歌う言葉を聞き、驚いて歌うことを止める子やすぐに英語と気づき、「あっ！英語の歌だ！」と口にする。 |
| 3 | 「If You're Happy and You Know It」と「しあわせならてをたたこう」との相違について楽しむ | 子ども達の反応に耳を傾けながら、最後まで歌い切り、同時に体も動かし切る。<br>そして、「今の歌は何の歌だったと思う？」と尋ね、子供達の発見と好奇心をさらに掻き立てる。 | 「知ってる知ってる～！」や「わからないわ・・・」などのそれぞれの反応を示す。<br>保育者の質問に対して口々に「しあわせならてをたたこう」と答える。 |
| 4 | | 「しあわせならてをたたこう」の歌だったけど、何か違ってた<br>ねぇ・・・、何が違ってたかな？」とメロディーは同じだけれども、違いについての視点を促す。 | 「わからない言葉だった」や「英語だよ、あれは英語の歌だった！」と違いに対する率直な印象や自らの知識についてロにする。 |
| 5 | 「If You're Happy and You Know It」の歌詞の意味について興味を持つ | 英語の歌という答えを発表し、様々な観点での気づきに対して褒め、発見に対する喜びを引き出す。<br>「If You're Happy and You Know It」という英語名を伝え、歌詞の意味を丁寧に説明する。<br>♫てをたたこう　Clap your hands♫<br>♫あしならそう　Stamp your feet♫<br>♫ホーレーといおう　Say “Hooray”♫ | 口々に「If You're Happy and You Know It」と英語名を言い始め、英語を知った・英語を喋ったという喜びを感じる。<br>英語の歌詞の内容に触れ、知っている日本語のしあわせならてをたたこうと同じところや、違うところに気づき、言語は違っても歌詞の内容は同じものもあるという認識を持つ。 |
| 6 | 「しあわせならてをたたこう」と「If You're Happy and You Know It」を両方歌い、日本語と英語の持つ面白さに触れるながら、それぞれの歌詞による動作も同時に楽しむ | 「それじゃ、みんなのよーく知っているしあわせならてをたたこうを歌ってみようか！」と言って、歌うことを楽しむ。<br>「次はIf You're Happy and You Know Itをゆっくりでいいから歌いながら体も動かしてみよっか？」と言って、難しさや日本語との違いを楽しむように声掛けをする。 | 「しあわせならてをたたこう」は慣れ親しんでいるので元気よく歌いながらおなじみの動作を行う。<br>「If You're Happy and You Know It」は難しさに挑戦する気持ちを持って、同じと違いを楽しみ、意味がわかったことで親しみを持って歌いながら体を動かすことができる。 |

「しあわせならてをたたこう」「If You're Happy and You Know It」指導案




「こどものうた200」

If You're Happy and You Know It

If you're happy and you know it,
Clap your hands. (clap, clap)
If you're happy and you know it,
Clap your hands. (clap, clap)
If you're happy and you know it,
Then your face will surely show it.
If you're happy and you know it,
Clap your hands. (clap, clap)

「英語の歌＆アクティビティ集」

「しあわせならてをたたこう」の英語バージョンが「If You're Happy and You Know It」である。「If You're Happy and You Know It」にも身体活動が含まれている。手をたたく（clap your hands）・足をならす（stamp your feet）・“ホーレー”という（say “Hooray”）となる。日本語のものとの違いは，肩をたたくこととホーレーというの点となる。この点については，あえて違いを残すのか共通点にのみ絞って活動するのかは実践者次第となる。今回はあえて違いを残すパターンで考えるとする。

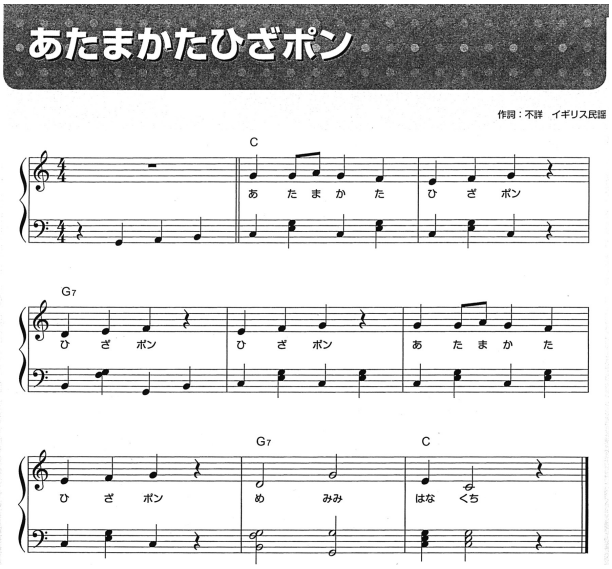
「しあわせならてをたたこう」と「If You're Happy and You Know It」では，メロディーと歌詞の意味は全く同じ意味である。そこに，言語は違うが意味は同じという共通点を見出すことが可能となる。言語という大きな違いにみる同じという経験は，子ども達にとって不思議な体験となるはずである。

### 3）「あたまかたひざポン」と「Head, Shoulders, Knees, and Toes」

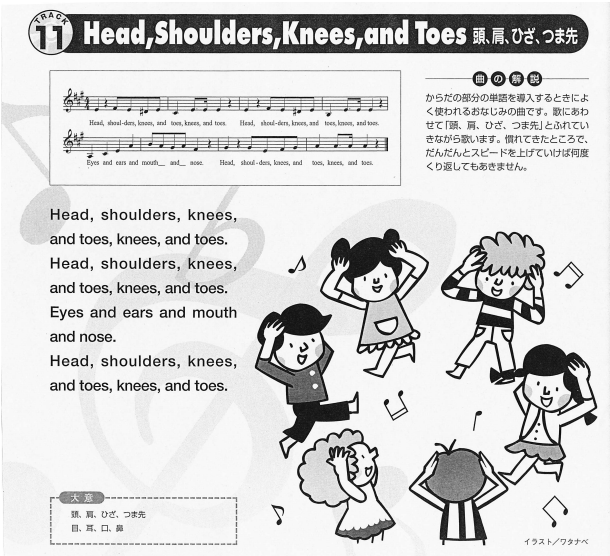
「あたまかたひざポン」は比較的年齢の低い子ども達に対して行う手遊びの一つである。自ら体を動かすことのできない０歳児も，保育者と共に歌に合わせて各部位をトントンと叩くことで，スキンシップを楽しみながら部位の名前に親しむ活動である。あたま・かた・ひざとそれぞれをタップ（トントン叩く）する運動は全身運動であり，ポンのタイミングでクラップ（拍手）する際にはリズミカルな動きが必要となる。

| | 活動の流れ | 保育者のことば及び行動 | 予想される子どもの反応 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「Head, Shoulders, Knees, and Toes」との出会い | 「頭は英語で何ていうか知ってる？」「肩は？」などと尋ねてみる。「歌に合わせて知っている場所を手でトントンとしてみて！」と言って、「Head, Shoulders, Knees, and Toes」を歌う。 | 保育者の歌う言葉を聞き、英語によって表現された体の部位をわかる範囲で触ってみる。わからない場所は隣近所を見ながら、触ってみる。 |
| 2 | 「Head, Shoulders, Knees, and Toes」の歌詞の意味について興味を持つと「あたまかたひざポン」との相違について楽しむ | 子ども達の反応に耳を傾けながら、最後まで歌い切り、同時に体も動かし切る。そして、「難しかったね！」と子どもの声を代弁しながら、一つ一つの部位の英語の名前を伝える。 | 「知ってる知ってる～！」や「わからないわ・・・」などのそれぞれの反応を示す。保育者の質問に対して口々に「Head」「Shoulders」などと一緒に英語名を口ずさむ。 |
| 3 | | 「『Head, Shoulders, Knees, and Toes』の歌だったけど、何かと似てなかったかな？」と「あたまかたひざポン」との類似についての視点を促す。 | 「英語だよ、あれは英語の歌だった！」「Headは頭で・・・」などと経験に対する率直な印象や自らの知識についてロにする。 |
| 4 | あたまかたひざポンのメロディーを流す | 「Headはあたま、Shouldersはかた、Kneesはひざ・・・」とヒントを出すように言ってみる。そして、「あたまかたひざポン」をゆっくりとやり始める。 | 「あたまかたひざポン」は馴染みのある手遊びであるので、ヒントに飛びつき「あっ！あたまかたひざポンだ！」と言って、保育者について手遊びを始める。 |
| 5 | 「Head, Shoulders, Knees, and Toes」と「あたまかたひざポン」との相違について楽しむ | 両方の歌に出てくる部位について質問し、唯一違う「ポン（拍手）」と「Toes（つま先）」に気づくように促す。メロディーやリズムは違うけれども、英語にも同じような手遊びがあることに触れ、楽しさを共有する。 | 口々に「Headは頭、Shouldersは肩、Kneesは膝、Toesはつま先、Eyesは目、Earsは耳、Mouthは口、Noseは鼻」と英語名を言い始め、英語における新しい言葉の獲得に喜びを感じる。 |
| 6 | 「あたまかたひざポン」と「Head, Shoulders, Knees, and Toes」を両方歌い、日本語と英語の持つ面白さに触れながら、それぞれの歌詞による動作も同時に楽しむ | 「それじゃ、みんなのよーく知っているあたまかたひざポンを歌ってみようか！」と言って、歌うことを楽しむ。「次はHead, Shoulders, Knees, and Toesをゆっくりでいいから歌いながら体も動かしてみようか？」と言って、難しさや日本語との違いを楽しむように声掛けをする。 | 「あたまかたひざポン」は慣れ親しんでいるので元気よく歌いながらおなじみの動作を行う。「Head, Shoulders, Knees, and Toes」は難しさに挑戦する気持ちを持って、同じと違いを楽しみ、意味がわかったことで親しみを持って歌いながら体を動かすことができる。 |

「あたまかたひざポン」「Head, Shoulders, Knees, and Toes」指導案




「英語の歌＆アクティビティ集」




「手あそび歌あそび」

「Head, Shoulders, Knees, and Toes」は「あたまかたひざポン」とはメロディーもリズムも違う曲である。しかし，この２曲における類似点は，一つのポイント以外は全て同じ部位を触って遊ぶ手遊びという点である。この２曲を実際に体の部位に触れながら経験することで，ただ歌うだけとは違う学びに繋がると考える。体を動かしながら得る新しい知識は，楽しいという感覚とともに得るものとなり，その経験は子ども達の心に深く刻まれるはずである。さらに，違うメロディーとリズムの曲ということで，それぞれを独立して楽しむことも可能とし，ゆっくりや速いテンポで行うことで，その楽しさも広がりを見せることとなる。

## Ⅵ．まとめ

現在英語活動を取り入れている幼児教育現場では，その目的に一貫性が伴っていないのではないかと推察する。その根拠として，英語活動の全面的外部委託が挙げられる。地域性を考慮に入れたとしても，その英語活動の取り入れに対する目的が，本来の保育における目的に準ずるものであるならば，全面的外部委託という形にはならないはずである。このような各園の実情に大きく左右されるような活動の取り入れは，それを受ける子ども達に大きな相違，もしくは無意味な経験の積み上げが生じると危惧する。実際に英語活動を取り入れている幼児教育現場で，「なぜ英語活動を取り入れる必要があるのか」という質問に対する教育・保育内容の面から見た答えをもっているのであれば，今ある英語活動の形は保育の目的とはズレているということになる。英語活動を日常保育・教育とは一線を引く特別活動として扱っている現在の状況を一新し，保育内容の一部として取り入れることで，日本における英語の捉え方に一つの流れを生むことが可能と考える。日本におけるグローバリーゼーションの潮流がある以上，幼児教育現場の保育者によって実施される英語活動は，必要不可欠なものと考える。そのためにも，子ども達の貴重な時間を費やす活動とするのであれば，子ども達の興味関心と発達段階を十分に考慮する中で構成された環境のもとで，信頼関係の築かれた担当保育者と共に楽しむ英語活動が，子ども達に与える影響が良いものであり，貴重なものであるかは容易に想像がつくはずである。

## 参考文献


１）関口はつ江　編「保育の基礎を培う　保育原理〈第２版〉」萌文書林　2015年

２）秀真一郎「幼児教育現場における英語活動―保護者の捉え方にみる課題―」吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系）第24号　2014年

３）秀真一郎「幼児教育における英語活動の現状とあり方」第11回順正学園学術交流コンファレンス抄録集　平成27年３月１日

４）秀真一郎，木本有香ほか「幼稚園・保育所における英語活動に対する一考察～遊びを通じた英語活動と小学校における英語教育に関連して～」全国保育士養成協議会第53回研究大会　平成26年９月19日

５）森上史朗・小林紀子・若月芳浩　編「最新保育講座１　保育原理［第３版］」ミネルヴァ書房　2015年

６）吉岡剛　編「幼児教育課程総論」佛教大学通信教育部　1999年


## 引用文献


１）アルク　キッズ英語編集部　編「子ども英語BOOKS　教室で大活躍！『英語の歌＆アクティビティ集』」株式会社アルク，2005年12月14日　p.30　p.38

２）小泉八重子　監修「DVDお手本つき　手あそび歌あそび」新星出版社，2011年12月15日　p.30

３）小林美実　編「こどものうた200」チャイルド本社，1975年６月１日　p.48

４）矢田部宏　編「保育に役立つ！ピアノが身につく！こどものうた175　９版」ひかりのくに，2003年４月　p.13

５）内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」平成26年４月30日　第１章，第１，２

６）厚生労働省「保育所保育指針」平成20年３月28日　第１章，２

７）「Twinkle, Twinkle Little Star」Kidsongs http://www.kidsongs.com/lyrics/twinkle-twinkle-little-star.html